

1. 略歴

1980年4月	東京大学教養学部理科I類、入学
1982年4月	同学部教養学科第一文化人類学学科、進学
1984年3月	同学科、卒業
1984年4月	東京大学大学院社会学研究科修士課程文化人類学専攻、入学
1986年3月	同修士課程、修了
1986年4月	同研究科文化人類学専攻博士課程、進学
1988年4月	社会学研究科より総合文化研究科へ移管
1990年8月	東京大学大学院総合文化研究科博士課程文化人類学専攻、中途退学
1995年11月	東京大学大学院総合文化研究科、博士号（学術）取得
1994年4月	東京大学教養学部専任講師（～1997年3月）
1996年4月	大学院総合文化研究科超域文化科学専攻専任講師に配置換
1997年4月	東京大学大学院総合文化研究科超域文化科学専攻助教授（～2004年9月）
2004年10月	東京大学大学院人文社会系研究科基礎文化研究専攻助教授
2005年4月	国立民族学博物館文化動態研究部門客員研究員（～2009年3月）
2009年4月	東京大学大学院人文社会系研究科文化資源学研究専攻准教授
2014年9月	東京大学大学院人文社会系研究科文化資源学研究専攻教授

2. 主な研究活動

多様な状況における文書・読み書き、その人間・社会との関係の研究

a 専門分野 b 研究課題

文化資源学（文書文化論）

主に発展途上国を念頭に置きつつ、広く文書・読み書きと人間・社会の関係について研究している。また、調査研究方法の検討、改善にも強い関心を持っている。様々なフィールド調査で得られるデータや知見を、言語能力、数的能力、道具使用等に関する認知科学や、文書をはじめとする認知的人工物（cognitive artifacts）の変化に関する歴史学的研究と有機的に接合することを目指して、隣接諸分野の研究者との共同研究にも積極的に取り組んでいる。

c 概要と自己評価

以下の3つの課題を意識しつつ、相互に関連しあう複数の研究を並行して進めた。

- ・文化資源としての文書文化の考察
- ・デジタル技術と文書文化の関係の考察
- ・文書・読み書きに関する多様な領域の専門家との共同作業の推進

（1）歴史学者と共同で16世紀スペイン会計文書を対象として人文情報学のアプローチを用いた研究を進めており、途中経過の学会報告を行った。

（2）2017年5月より幹事を務める東京文化資源会議において、地域の文化資源の調査、活用にも積極的に取り組んでおり、2021年4月にはデジタルアーカイブ学会で企画セッションを行った。関連する活動の概要は東京文化資源会議ホームページ（<https://tcha.jp/>）で発信している。

（3）文化資源学研究室で編集した論集『文化資源学—文化の見つけかたと育てかた』を刊行した。

（4）東京大学ヒューマニティズセンター公募研究（A）個人研究に採択され、2021年9月より1年間、「デジタル技術を用いた文化資源の多次元アノテーションの研究」に取り組んでいる。

以上のように、歴史学、情報学、国際協力、地域開発・まちづくりなど多様な分野の専門家との共同作業を積極的に行い、成果を発信するという基本方針に沿った活動を継続している。引き続き、学際性、社会連携、情報技術の積極的活用を重視した文化資源の分析を進めていく。

d 主要業績

(1) 著書

共著、東京大学文化資源学研究室、『文化資源学—文化の見つけかたと育てかた』、新曜社、2021.10

(2) 学会発表

国内、小風尚樹（千葉大学）、伏見岳志（慶応義塾大学）、中村雄祐（東京大学）、「財務記録史料の構造化記述に向けて：近世スペイン・ブルゴス県のサラマンカ商会の複式簿記を事例に」、UTDH アンカンファレンス、2020.4.26

国内、小風尚樹（千葉大学）、伏見岳志（慶応義塾大学）、中村雄祐（東京大学）、「近世スペイン会計史料のマークアップ：16世紀北スペイン・サラマンカ商会の元帳を事例に」、人文科学とコンピュータシンポジウム2020、オンライン、2020.12.13

国内、中村雄祐、真鍋陸太郎（東京大学）、鈴木親彦（人文学オープンデータ共同利用センター）、栗生はるか（文教建築会ユース）、三文字昌也（東京大学）、松尾遼（東京ケーブルネットワーク）、「都市における文化資源のアーカイビング：地図、記憶、映像における取り組みから考える」、デジタルアーカイブ学会第6回研究大会企画セッション（サテライト・プログラム）、オンライン、2021.4.25

国内、中村雄祐、「デジタル・ネットワーク化が進む世界における読み書き算術」、日本英文学会第94回全国大会 特別シンポジウム、オンライン、2022.5.22

(3) 研究報告書

「Sustainability と人文知」プロジェクトチーム、東京大学総長裁量経費プロジェクト「Sustainability と人文知」（2015年度～2020年度）報告書、pp.67-76、2020.3

(4) マスコミ

「フィールド調査のニューノーマルについて考える」、『月刊みんなく 2020年9月号』、国立民族学博物館、2020.9.1

(5) データベース

中村雄祐・鈴木親彦・真鍋陸太郎、「崖東夜話ぶらり」、2020.8

3. 主な社会活動

(1) 他機関での講義等

セミナー、東京文化資源会議／アッサラームファンデーション／寛永寺／神田明神／ニコライ堂／湯島聖堂／湯島天満宮、「崖東夜話」、2020.10